

女夫石遺跡発掘調査速報

No.21

今回は、考古学からはなれて、空を見てみましょう。空は一度たりとも同じ顔を見せてくれることはありません。大気・風・太陽・人工物などなど色々なことが絡み合って作り出される大自然という画家の描き出す絵画のようなものです。私達の見ている空と似たような風景を女夫石縄文人や女夫石古代人も見たかもしれません。でも今回は絶対に見ていないでしょうね。なぜそんなこといえるのかって、だって今回の雲は人類が空を飛ぶことができなければ、できない雲だからです……。

飛行機によってできた飛行機雲がちょうど筋雲（すじぐも）を横断したことでできた雲です。まるで魚の開きというか骨みたいに見えませんか？飛行機の



飛んでいない縄文時代や平安時代には絶対に見ることの出来ない空ですよ。今や、空まで人の力が影響してしまっているのです。人が偉大なのかそれとも自然への冒涇なのか？難しいことですよ。

ズリ：今日もいい天気だったね。鳳凰三山にもうすぐ日が沈むけど、何だか不思議な形の雲があるよ。魚の骨みたいだね。

マキ：そうだね、笑える雲の形だね。

ズリ：飛行機雲と筋雲の偶然の組み合わせなんだろうけど、面白いね！

マキ：鳳凰三山の方の雲の切れ目から日の光が放射状に広がっているのもなんだか神秘的だね。女夫石縄文人や女夫石古代人もこんな神秘的な空を見ていたんだろうね！

ズリ：そういえば、日が短くなったし、朝夕は寒いくらいだね。昔の人はきっと冬支度を始めるんだろうね。栗やドングリやクルミなんかを採集して保存する準備をきつとしたんだろうな！

マキ：ところで、今年はドングリが不作らしいよ。昔の人はこんな時どうしていたんだろうね？ドングリ以外のものがたくさん取れればいいのだけど……。

ズリ：それを見越して食べ物を保存していたのかもしれないね。自然の恵みに頼っていただけじゃなくて、それなりにきつと工夫していたんじゃないかな？証拠はないけどね！（つづく）



ドングリといってもいろいろな種類があります。左の図に挙げたものはその一部です。どんなドングリの種類が育つか、地域などによっても違ってきます。

簡単に食用にできるものもあれば、アクヌギをしなければいけないものなどもあります。

今年はドングリ不作の年手ですが、熊に気をつけながらドングリ拾いをしてみませんか？クルミやトチノミが拾えるかもしれませんよ！個人の山で取らないようにね！